

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
中学校	印南町立印南中学校	栖原 伸精
学校所在地		
〒 649 - 1534 和歌山県日高郡印南町印南2145 tel 0738(42)0021 fax 0738(42)1042		
担当者名	担当教科	
笹野 覚	保健体育	
<p>〔学校の概要〕</p> <p>本校は日高郡中部の沿岸沿い、国道42号線に面した所にあり、漁業と農業が盛んな地域である。全校生徒は98名で、とても明るく活動的である。また、学校行事や体験活動にも積極的で、意欲的に参加している。また、本校では南海トラフ地震での被害が想定されているため、防災教育や防災訓練に定期的に取り組んでおり、特に地震・津波被害を想定した防災学習はぼうさい甲子園で入賞するなどの充実した取り組みが行われている。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 1年生 35名	3名 職員 3名	世界遺産センター熊野本宮館
実践研究テーマ		
郷土「わかやま」を学び、後世に伝える知識の育成		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間	郷土「わかやま」の世界遺産について学ぼう	
〔キーワード〕 ふるさと学習 世界遺産学習		
<p>〔単元目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録された過程を学ぶことで、郷土わかやまにに対する理解を深める。</li> <li>・現地学習を通して、わかやまの歴史を体感すると共に、環境維持や自然保護など世界遺産を守る取り組みについて考える力を育て、自らも積極的に社会に参画しようとする態度を育てる。</li> </ul>		
〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕		
全体	4時間	（「 郷土「わかやま」の世界遺産について学ぼう 」 4時間 ）
<p>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界遺産熊野本宮館に訪問し、展示されている資料を活用して郷土「わかやま」の歴史について触れた。</li> <li>・世界遺産センター職員の方から世界遺産に関する講座を受けた。</li> <li>・世界遺産マスターや世界遺産センター職員の方々にガイドをしていただきながら現地学習を行った。</li> </ul>		

<b>実践校に関する事項</b>			
<b>〔単元指導計画概要〕</b>			
	<b>主な学習活動</b>	<b>学習への支援</b>	<b>評価方法等</b>
1	事前学習（本校）	世界遺産センターのホームページにあるパンフレットを利用して、読み合わせや補助説明を加えながら事前学習を行った。	ワークシート
2	世界遺産講座（世界遺産センター）	世界遺産センターの職員から、世界遺産の歴史や「紀伊山地の霊場と参詣道」の概要、世界遺産に登録された経緯について説明を受けた。	観察・ワークシート
3	現地学習 （伏拝王子跡～熊野本宮大社）	世界遺産マスターや世界遺産センターの職員から説明を受けながら、伏拝王子跡から熊野本宮大社の約4kmを歩いた。	観察
4	振り返り（本校）	現地学習の後日、感想文を書かせ、振り返りを行い、自分ができることを考えさせる。	感想文
5			
<b>〔単元学習の成果と課題〕</b>			
<p>○成果</p> <p>生徒は、世界遺産に関する知識がほとんどなく、普段の生活でも世界遺産に触れる機会は少ない。今回の学習を通して、世界遺産について学び、世界遺産を守ることの大切さを考えることができた。また、紀伊山地の霊場と参詣道について初めて触れる生徒も多く、特に自分たちの郷土である和歌山県の良さや、将来人々に伝えていかなければいけないことを考えることができた。</p> <p>○課題</p> <p>現地学習が遠方であるために、事前の打ち合わせや準備が重要である。</p>			
<b>〔世界遺産学習の効果〕</b>			
<p>普段の生活では世界遺産に触れる機会というのは少なく、世界遺産について考える機会も少ない。世界遺産学習を通して、世界遺産のことを知るだけでなく、「なぜ世界遺産ができたのか」「世界遺産とはどういうものなのか」を深く考えることができる。また現地学習にて世界遺産を体感することで、その地域や歴史についても深く学べることもできるとともに、自然保護や環境維持に関する問題についても考えることができる。この学習を生かし、郷土わかやまを誇りに思える人材を育てていきたい。</p>			
<b>〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕</b>			
<p>世界遺産学習については本校の総合的な学習の一環として取り組んでいる。1年時は「紀伊山地の霊場と参詣道」、2年時は「高野山」の学習を行うことで、郷土「わかやま」を知り、郷土「わかやま」に誇りと愛情を持つ人材の育成を図りたい。そのためには、現地学習および、事前・事後学習の確保に努める必要がある。</p>			

## 様式 2

平成30年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

(生徒感想)

- 「紀伊山地の霊場と参詣道」を実際にあるいてみると道によって石の並べ方が違いました。はじめの方はバラバラ、少しいけば敷き詰められていて、もっと進めば大きな石が並べられていました。そういう所に、歴史を感じることができました。昔の人たちは、この道を片道10日かけて歩いたそうです。それは、自分の犯した罪を償うためだそうです。世界遺産マスターの方によると、一生で30回以上歩いた人がいたそうです。30回以上歩いたからといって許されることはないと思いますが、自分を見つめ直すためにはよかったのではないかと思います。
- 現地学習では、実際に熊野古道を歩きました。京都などからは極楽の地とされていて、和歌山にはすごいところがあることを知りました。また、熊野古道を歩きたいと思いました。
- 私は、初めて熊野古道を歩きました。熊野本宮大社をめざし、京都から歩いてくるのはとてもすごいと思いました。4km歩いただけでも疲れたのに、京都から歩くなんてすごいと思いました。現地では、外国人がたくさんいて、学校で習っている英語を活用することができてうれしかったです。これからも、私たちは「紀伊山地の霊場と参詣道」という文化遺産や日本中の世界遺産を守っていかなければいけないと思った。
- 現地学習で、実際に熊野古道を歩くと色々なところにその当時の時代を感じられるところがたくさんありました。少し舗装されていたけど、いつも歩くコンクリートの道とは歩きやすさがかなり違っていました。周りの景色には、とても自然があふれていて感動しました。今回の学習で、世界遺産について深く知ることができました。これからも今回学んだことを忘れず、「人類みんなの財産として守っていく」事を心がけていきたいです。

